



代表

星川 英紀

# 確かな基盤づくりを進め 広がる未来へキックオフ

せいおう

## 星王開発興業

山形県新庄市十日町 6180-24

山形県新庄市を拠点に土木工事などを手掛ける『星王開発興業』。サッカーと共に歩み、成長してきたという星川代表が力強く牽引している。今後は建設業に留まらず様々な事業へのチャレンジを見据える代表のもとを、タレントのつまみ枝豆氏が訪問。その半生を紐解き、事業にかける想いに迫った。

—早速ですが、星川代表のこれまでの歩みから。どんな少年時代を過ごされたのでしょうか。

小学生のころからサッカー一筋でした。私の時代は野球とサッカーで言えば圧倒的に野球人口のほうが多かったのですが、当時珍しく私の通う学校にサッカー部があったことがきっかけで始めたんです。ただ、決して恵まれた体格ではなく、運動神経が良かったわけではありません。ですから長く続けようとは思っていませんでした。結局、中学でも高校でも所属していたのはサッカー部。サッカーという競技に出会い、長く続けてきたからこそ今の自分が存在していると思います。

—サッカーと共に歩んでこられたと。代表にとっては人生の一部なのですね。

今でも忘れられないのが、高校3年生の春、大きな大会で負けたことがありまして。その大会でもう引退しようと考えていましたが、試合で負けたことがあまりにも悔しくて、次の冬の大会まで続けることにしたんです。ところが冬の大会でも負けてしまって（苦笑）、卒業後も社会人チームに所属し、結局サッカーを続けることになりました。

—不思議ですね。やりたいと思っても、できる状況にない人もたくさんおられるでしょう。その点、代表はサッカーの神様に愛されたのでしょうか（笑）。

—どうでしょうか（笑）。20代に入って

からは、かつてのチームメイトとサッカーチームを立ち上げました。コロナの影響で活動が制限されている状況ですが、今でも楽しくプレーしています。地元を離れて都会に出ていくメンバーも増えていますが、私は地元でずっとサッカーを続けたい。その想いだけでここまで来ました。

—では就職もこちらでされて、独立も果たされたと。

はい。高校卒業後、建設業界でキャリアをスタートしました。建設業といっても様々なジャンルがありますが、私は職人ではなく現場監督の修業をさせていただきました。けれどもなかなかその仕事にやり甲斐を見出すことができずにいたころ、ふと思いついたのが父の姿。実は父も建設業界に長く身を置いていて、建設機械を操縦する姿を見て「格好良いな。いつか自分もやってみよう」と思っていたんです。

—ではお父様の背中を追いかけてこられたのですか。

ええ。父は現在も現役なんですよ。紆余曲折あって独立することになったのですが、独立の一番大きなきっかけは私自身の病でして。大きな手術を経て仕事復帰することもでき、「生かされている」ということを実感しました。人生悔いのないように生きたいと考え、独立に踏み切ることができたんです。

—よく乗り越えられましたね。サッ

カーで鍛えた精神力も活かされたことでしょうか。今後の展望はいかがですか。

当社が手掛けるのは建設業ですが、あえてその業容を強調する社名にはしませんでした。建設業に限らず、様々なジャンルの事業に挑戦したいという想いがあったからです。現在軸にしている土木工事でしっかり基盤を整え、ビジネスの裾野を広げていきたいです。

(2021年4月取材)



星川代表にとって、お父様はずっと憧れの存在であり、師匠であるとのこと。どんな世界でも師匠の存在は大きいですよ。お身体にはご留意されて、これからも頑張ってください！



interviewer  
つまみ枝豆